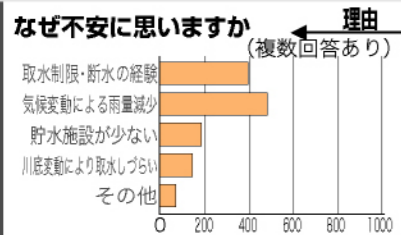
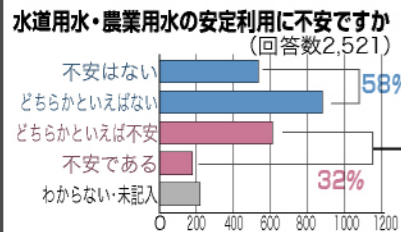


整備計画の原案作成にあたり、地域にお住まいのみなさまから川や湖の整備に対して期待することや取り組んでほしいことなどのご意見を募集しました。いただいたご意見の一部をご紹介します。

利水に関する項目

全体において「不安はない」もしくは「どちらかといえば不安はない」と答えた人が58%。

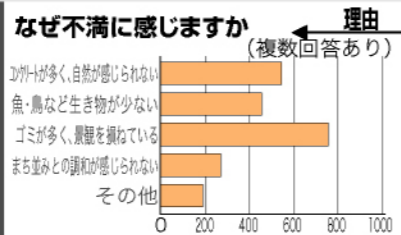
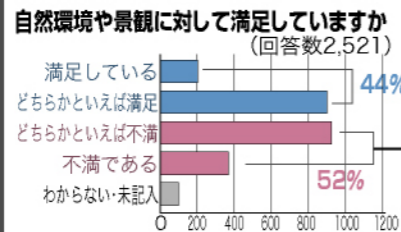
不安とする理由は、「取水制限・断水の経験」や「気候変動による雨量減少」と答えた人が多数を占める。



環境に関する項目

全体において「不満」もしくは「どちらかといえば不満」と答えた人が52%。

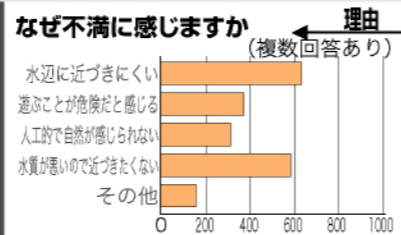
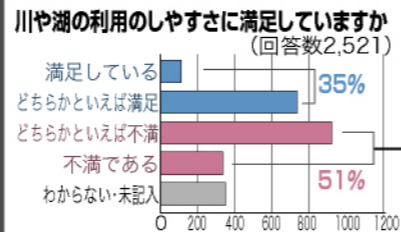
不満とする理由は、「ゴミが多く景観を損ねている」や「カカトが多く自然が感じられない」「魚・鳥など生き物が少ない」と答えた人が多数を占める。



河川利用に関する項目

全体において「不満」もしくは「どちらかといえば不満」と答えた人が51%。

不満とする理由は、「水辺に近づきにくい」や「水質が悪いので近づきたくない」と答えた人が多数を占める。



大橋川通信

大橋川改修情報紙

「利水・河川環境に関する目標と実施内容(案)」について

「斐伊川水系河川整備基本方針」に基づき策定している「斐伊川水系河川整備計画」の目標と実施内容(案)について、前号の「治水」に続き、今号は「利水・河川環境」についてご紹介します。

利水に関する目標と実施内容(案)

目標 「豊かな暮らしの営みを支える斐伊川」

尾原ダムおよび志津見ダム建設により、流水の正常な機能の維持(農業用水等の安定供給と河川に生息・生育する動植物の保護等)のために必要な流量を確保するとともに、関係機関との連携により河川の適正な利用を推進する。

利水に関する実施内容(案)

- 尾原ダム及び志津見ダムの整備や水資源の広域的かつ合理的な利用の推進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保。
- 渇水などの発生時の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水利利用者相互間の水融通の円滑化などを関係機関および水利利用者などと連携して推進。

河川環境に関する目標と実施内容(案)

目標 「斐伊川水系が生み出す特徴的で良好な河川・湖沼の環境及び景観の保全を図り、次世代に引き継ぐ」

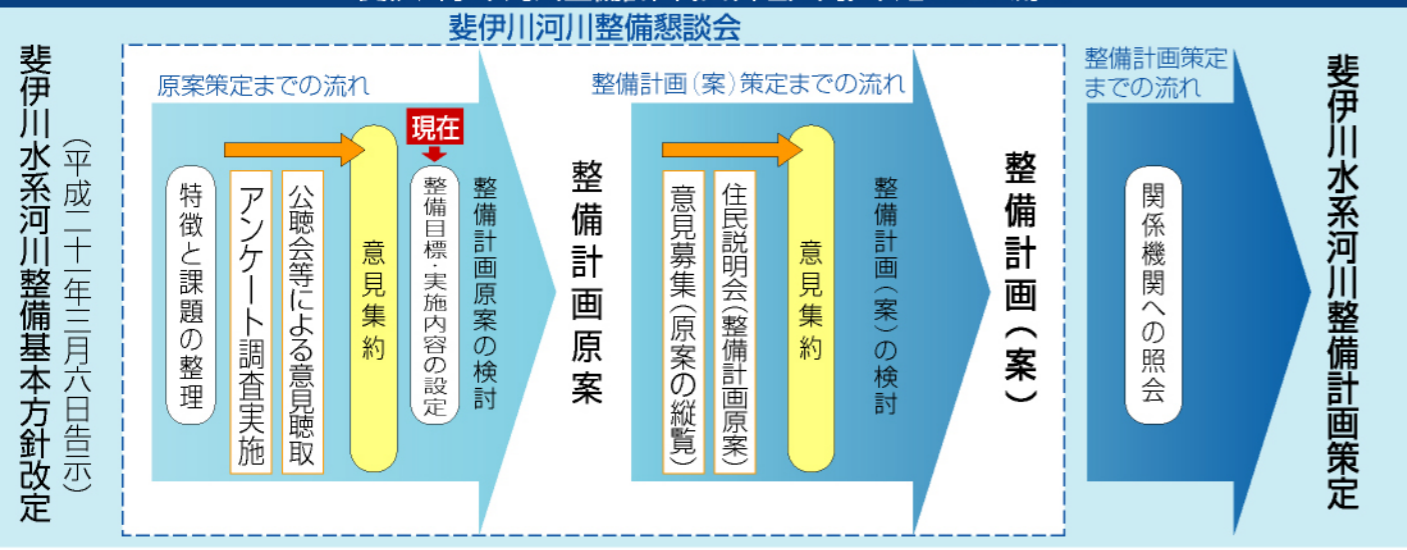
- 斐伊川、神戸川の流れある水面が織りなす潤いと安らぎのある特徴的な水辺環境の保全を図り、豊かで多様な自然環境の再生を目指す。
- 連結汽水湖が生み出す独特な汽水環境の保全を図り、豊かで多様な景観と自然環境の再生を目指すとともに、関係機関と調整を図りつつ、水質汚濁に係る環境基準を満たすよう水質改善に努める。

河川環境に関する実施内容(案)

- 水系全体
 - 河川環境のモニタリングとして日常からの河川巡視による監視や河川水辺の国勢調査、その他の環境調査により、情報把握に努めるとともに、必要に応じて動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・改善を図る。
- 河川毎、区間毎の特性、地域のニーズなどを踏まえた良好な河川空間の保全に努める。
- 斐伊川上流部および神戸川上流部
 - 尾原ダムおよび志津見ダムの建設により水没するヤブツバキ等の移植など生育環境に配慮を行うとともに、環境保全措置等に関するモニタリングについては、専門家の指導・助言の下に実施する。
 - ダム水源地域ビジョンを策定し、地域の活性化や流域連携、住民参加による地域づくり等についても推進する。

※ 宍道湖と大橋川は、中面で詳しくご紹介します。

斐伊川水系河川整備計画(国管理区間)策定までの流れ



大橋川コミュニティセンター

[休館日] 土日祝祭日・年末年始 [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] なし
〒690-0887 松江市殿町383番地
TEL(0852)28-3621 FAX(0852)28-3623
E-mail : info@comisen.jp
ホームページ: <http://www.comisen.jp/>



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

大橋川の実施内容(案)

環境保全の考え方

中海・宍道湖は、大橋川により繋がれた連続汽水湖であり、大橋川は両湖の汽水環境に大きな影響を与えている。そのため、大橋川改修事業が中海・宍道湖を含む汽水湖の環境に与える影響について調査・予測・評価を行い、環境の保全に関する事業者の考え方を、「大橋川改修事業環境調査最終とりまとめ」(平成21年2月)に示した。

予測の結果、以下の種及び群落について環境保全措置を実施することとし、流下断面を侵さないような形状で河岸に新たな生息環境の整備や、移植による再生を図る。

- 大橋川改修事業の影響を受けると考えられる動物、植物、生態系
- 動物: ヒトハリザトウムシ、ウデノミアサガイ、ヨシダカザンショウガイ、ムシヤド'リカガザンショウガイ
 - 植物: スズ'ムシ、ヒメシロアザ、カチ'シヤ、オクグ'群落、コアマモ
 - 生態系(典型性): ヨシ、コアマモ

実施内容(案)

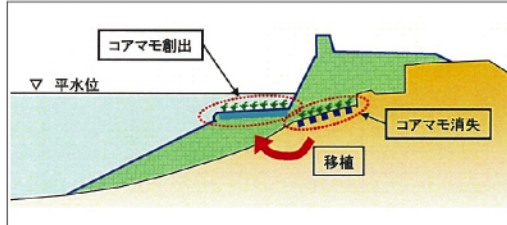
整備計画の段階で保全の対象となる重要な種は、可能な限り新たな生息生育環境の整備や移植等の保全措置を行う。

- コアマモ: 拡幅や築堤により消失する面積については、護岸構造を工夫し新たな生育面積を確保する。
- オオクグ: 築堤により消失する面積については、中海側の移植候補地への移植を行い保全を図る。
- ヨシ: 拡幅や築堤により消失する面積については、移植地や移植時期等について専門家の指導・助言を得ながら面積を確保する。
- ヒトハリザトウムシ、ウデノミアサガイ、ヨシダカザンショウガイ、ムシヤド'リカガザンショウガイ: 群落の移植により、これらの種の生息域を整備する。

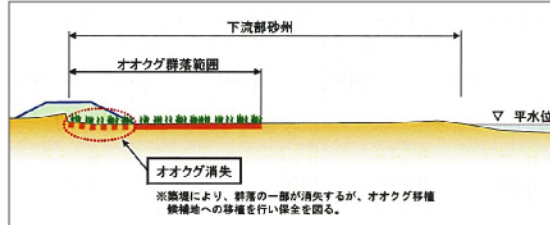
モニタリング調査の実施

- 改修事業が水環境や動植物及び生態系に与える影響の程度、環境保全措置の実施内容の実現の程度については、モニタリング等によって確認しながら事業を進めることとし、環境影響の程度が著しいことが予測される場合も含めて明らかになった場合は、新たな環境保全措置を含めた対策の検討を行い、適切な対応を図る。モニタリングは、協議会を組織し、意見、助言を得て作成した計画に基づき実施する。
- 大橋川の改修にあたっては周辺のまちづくり等に配慮し、地元自治体と連携・協力を図る。

護岸構造によるコアマモ創出のイメージ図



オオクグ箇所のイメージ図

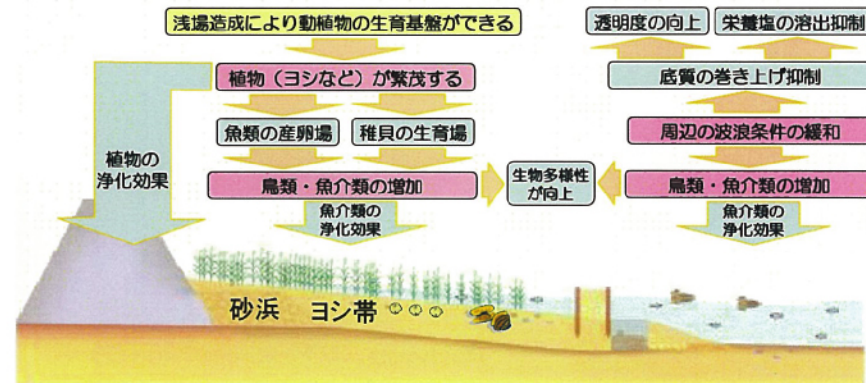


宍道湖・中海の実施内容(案)

浅場造成、覆砂(浅場)による溶出負荷削減・自然浄化機能向上対策を実施

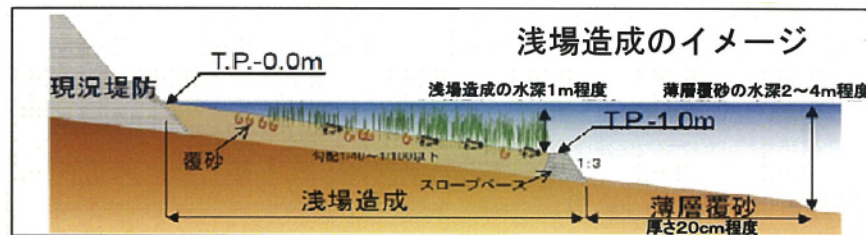
宍道湖における浅場整備

宍道湖において人工化された湖岸前面の沿岸部に浅場を整備し、波浪による巻き上げを防ぎ透明度の向上を図るとともに、生物の生息生育環境を再生し、湖の自然浄化機能の回復を図る

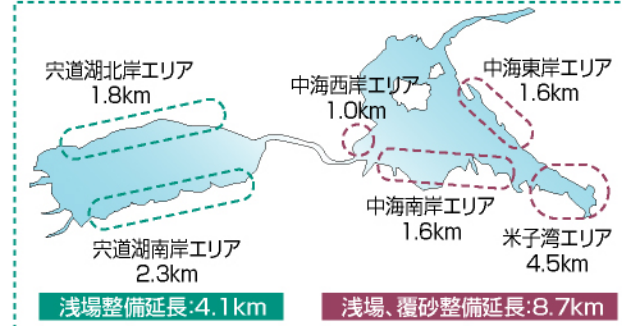


中海における浅場整備

中海沿岸部の通年を通して生物が生息可能な水深4m以浅において浅場整備及び覆砂を実施し、波浪による巻き上げを防ぎ透明度の向上や貧酸素水塊の這い上がりの改善を図るとともに、生物の生息生育環境を再生し、湖の自然浄化機能の回復を図る



浅場造成・覆砂の実施箇所(案)



地域からのご意見

【河川・湖沼整備への要望】

アンケート調査結果から、河川・湖沼整備への要望についてご紹介します。

- とくに湖沼部の「水質」、「利用のしやすさ」について不満が多くなっている
- 不満の理由は「水が濁っている」、生き物が少ない、「ゴミが多い」「水質が悪く近づきたくない」など相互に関係している
- ゴミ対策や水質底質改善、より自然環境に配慮した河川・湖沼の整備、親水利用施設の整備が望まれている。特に湖沼部では、沿岸域の浅場造成や覆砂に対する要望が多い

懇談会での委員からの主な意見

自然再生の手助けとして、茎や根が定着して自然再生することを助長してやる手法も考えてはどうか。

- 宍道湖・中海の水産振興策においては、浅場造成と貧酸素水対策が最も大切である。整備計画でも水質改善事業の柱が浅場造成になっており、水産振興策と同じ方向があるので、ぜひ浅場の造成を続けていただきたい。
- 浅場造成や覆砂は、目的を達成するまでにかなりの時間を要するので、その間の維持管理の方法を施工前から考えておく必要がある。
- ヨシの植栽等を住民と共に取り組みが進んでいることは非常に良いことである。ヨシのポット植栽は、手法としては非常に優れているが、

大橋川の環境に対する実施内容が、保全や再生という言葉は出てくるが、実施において代償措置をするということにとどまらずはしないか不安。保全・再生について、どの程度真剣に考えているのか。引堤等、堤防の造り方を工夫したり、水田を遊水地として利用する考え方もあるのではないかと。

松江市にとって、シジミは水産振興だけでなく、観光・物産・シンボルみたいなものであり、質と量の両方が重要となることからモニタリング調査をしっかりとお願いしたい。

大橋川改修における堤防形状への配慮事項

堤防イメージ

堤防形状については、「大橋川周辺まちづくり検討委員会」から提言された各地区の整備の主な考え方を踏まえたものとする。

- 大橋川改修の護岸整備については、「大橋川周辺まちづくり検討委員会」にて、「住民意見交換会」等での住民意見を踏まえた種々の検討がなされ、護岸の基本的な景観イメージが下図のイメージパスのように提案されている。
- 委員会の提案を踏まえ、大橋川の現況景観を継承することを基本とし、既設護岸と同様の形状とすることとした。

上流部 北岸

柳並木の保全

石積みを継承
現地盤との高低差
0.0~0.8m

浅場の保全

現在の柳並木の風情を保全することを基本に、水辺との近さのとりえ方について、十分に議論を重ねながら計画する

下流部 北岸

矢田の渡しの利活用

水際植生の保全

緩い斜面による
自然景観の創出

現地盤との高低差
0.0~2.8m

現在の景観や歴史に配慮したまちづくりを進める

上流部 南岸

並木等の植生を保全

水際に広い空間を創出

現地盤との高低差
0.1~1.3m

河岸の緑地と道路の再配置が必要な地区である。水辺の緑地の利活用や遊歩道の整備、河岸道路への歩道整備などを検討する

中流部 南岸

魚釣り、散策に配慮した河岸づくり

水際植生の保全

現地盤との高低差
0.4~1.2m

堤防や生活道路の整備、水辺の緑地と一体となった河岸整備と利活用について検討。魚釣りや散策ができ、ボートやカヌーの利用しやすい環境整備を進める

※ 背後の街並は現状を基に描いています。 ※ 治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。